夏期児童対策をおえて

子どもたちは夏季対策をどのように見ているか？

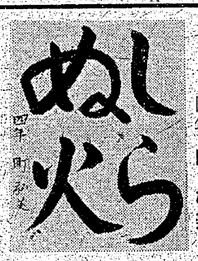
今年の夏季児童対策は、昨年の第一回のそれにくらべ、あらゆる点で大きな前進を遂げた。何よりもそのことを示すことは、ぼう大な数の作品（絵画や作文）を生みだした事実である。それらの中から選んだごくわずかな数ではあるが、次ページにまでひきつづいて紹介をごろうじた。

さてはじめの部は、「児童対策を、子どもたちがどう見、またその中でどう暮らしてきたか？」。その目は鋭い。

絵日記　うどう　きみ子

書き取り　四年　待鳥友子

書道　四年　町　弘美



ぬし火ら　四年　町　ジュン

書道　六年　沢田留美子

あの川ま　六年　沢田留美子

カッパ先生によろしく

AKAKI KA一

先生、みじかい間でしたが、お世話になりました。先生からえんめいプールにつれて行ってもらったり、でん虫とりにもつれて行ってもらい、たいへんお世話になりました。でも、テレビがみられないので、ぎんねんむねんでした。

ぼくはやねの上にのぼったり、たいへんお世話になりました。かっぱ先生がおなおりになって、女の先生がこられました。

朝勉強をしました。まい日まい日勉強をしました。六日におわかれがあったそうだ。ぼくはそのときやすんでいたので、くやしかった。七日にこの作文をかいた。かっぱ先生によろしく。ではさようなら。バイバイ。

でもぼくはがんばります

四年　藤田秀実

いままで二週かん、先生たちといっしょになかよくしてきました。もうきょうでわかれるから、つらいと思いました。柳光先生、佐藤先生、藤井先生とおわかれだから、がんばっていきたいと思います。

まえの森田先生、中島先生とわかれるときもつらかった。でも、ぼくは家でがんばります。

× × × ×

来年はまじめにしたいです

五年　岩下由美代

学習会は、七月二十六日からだったけど、わたしは一日おくれて七月二十七日からでした。始めは不安でしたが、とてもおもしろい先生たちでした。名前は、菊池先生と前田先生でした。それから何日かたって、田島先生がこられた。菊池先生や真野先生や田島先生、前田先生たちがまたきてくれることをねがっています。とてもおもしろい学習会でした。

できるだけまた来てほしい

六年　緒方久美香

始め、学習会は長いなと思っていたけれど、あっというまに二週間がすぎました。朝は勉強だけどわたしはあんまりまじめではありませんでした。お昼からは遊びですけれど、あんまり遊ぶきにはなりませんでした。

わたしは先生たちを、いつもとゆうより、毎日からかっていました。すこし、反省しなければなりません。勉強の時は、先生がいつもいつもわたしたちを注意して、菊地先生が「勉強せんね！」といわれます。わたしたちはそんなときわざとからっていました。これもすこし反省しなければなりません。

一番たのしかったのは、お昼ごはんの時でした。お昼はおべんとうなので、それがとてもおいしいので、はじめは集会じょうで食べていたけれど、あとでは集会じょうのよこの木かげでたべていました。すずしいからです。

でもいちばんいやなことは、わたしたちが悪かったことです。わたしたちは六年生なので、わたしたちがお手本を見せるのがほんとうですが、下級生の人たちが、反対に、上級生にお手本を見せているようでした。そんなところは反省します。

来年はわたしたちは中学一年で、学習会があるなら、わたしはぜったいいきます。だから、やさしい真野先生、足くせの悪い田島先生、口の悪い菊地先生、できるだけまた来てほしい！

学習会についての私の意見

岩元加代美

これは私の意見ですが、学習会と最初耳にしたときはとてもきびしい先生がいて、ひどくしごかれるような心持になりました。これはだれでも、一度は思うことではないでしょうか。

しかし、そう思ったのもつかの間、一、二度行ったら楽しくなってしまいました。というのは、レクリエーションがあり、友だちとの交りなども深くなっていくし、また一、二、三年のしらなかった人とも友だちになれました。そういうことばかりか、先生とも親しくなれましたし、勉強になったこともとてもたくさんあります。今ではさよなら会をするのも、心さびしい気持になります。

そもそもここにくる動きは、学習会に行く人の希望をとりにこられたとき、私はぜったいに行く気持はなかったのですが（というのは、私の友だちの真由美ちゃん、美代子ちゃんなどがこないというから）、一人の教え方がちがうこと、途中からおしえる先生がかわられたのは、あまりよいとは思いませんでした。しかし、いろいろな先生についてわかり、いろいろな教え方があるのをしったので、そのめんではよかったと思います。でも先生二人で教えてもらうのに、生徒が約二十名だということは、あまりよくないことと思いました。少なくとも各学年に一人ずつは先生がいてほしいと思いましたが、あとから考えるといろいろの面からそう私たちのいうことばかりは聞かれないと思いました。

先生二人二人の教え方がちがうというのは、たとえば小川先生などは、私たちが各自ちがう勉強をしていても、わからないところだけを教える。前の下道先生は、二年生全員を同じ勉強をさせて一題一題をこたえあわせをして、やりかたなどを教える。私は、どちらかというと、下道先生よりも小川先生の教え方の方がいいと思います。というのは、自分のわかるところは教えてもらわなくてもよい。わかるところを教えてもらっても、時間のむだだからです。

私は先生たちを、先生とはおもいたくてもおもわれなくなりました。年は約十才くらいしかちがいませんし、話してでも学校の先生よりも話しやすいし、交りが深くなるとおもうのです。ですから私は、学習会にくるのが長続きするのだとおもったのでした。

こういう学習会だったら、休み期間中はあった方がいいとおもいます。

野菜の廃棄制度とは？

野菜の暴落対策として農林省は廃棄制度――キャベツでは卸値が三日間にわたって十二円五十七銭（京浜市場）を割ったら、産地の畑にトラクターを入れてキャベツをつぶし、市場価格をつり上げようというもの――をはじめました。私たちはいつまでも低賃金で高いキャベツを買わされることになる。

新港地区

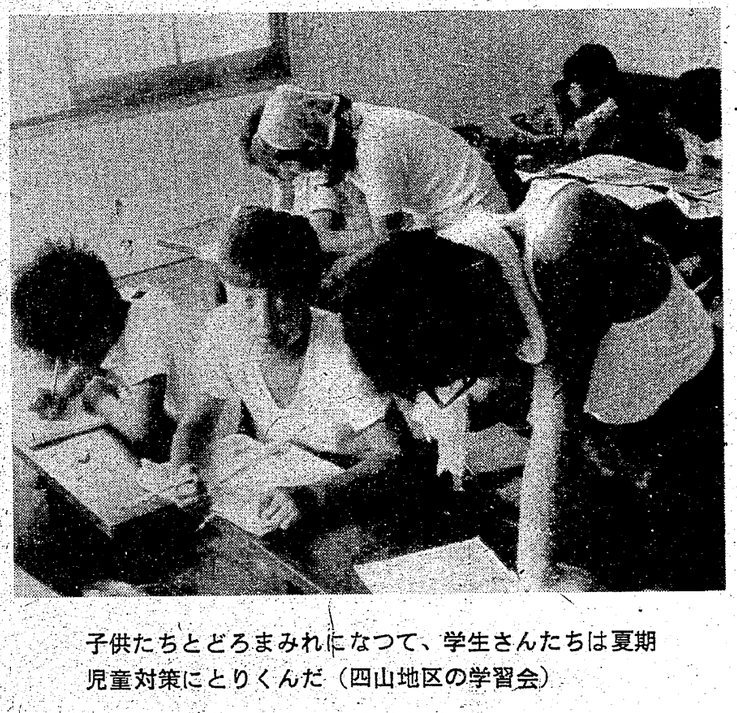
（参加者＝小学生二十九名、中学生十五名）

この地区の問題点は、つぎのとおり。

一、夏期対策の目的のとらえ方がまちまちである。勉強をみてくれればいいという人、共同生活の訓練をしてくれという人、遊んでくれさえすればという人など、組合員・主婦会のとりくみが統一されていなかった。

二、運営上の問題は、小学生については一年生から六年生まで一緒に面倒みるのは技術的にムリである。中学生については、クラブ活動、アルバイト、受験勉強といろいろな方面に一人ひとりが参加しているし、学力差もある。このような生徒たちへの対策には、自主的なグループをコツコツつくっていく努力をする以外にないだろう。勉強みてくれでは解決にはならない。

三、生徒の名簿も不徹底でありもっと地域分会や主婦会活動と関連づけた取り組みがのぞまれる。



子供たちとどろまみれになつて、学生さんたちは夏期児童対策にとりくんだ（四山地区の学習会）

日常的な話し合いを

原万田地区

（参加者＝小学生九名、中学生二名）

組合への注文をいうなら、下部組合の方にもむつかしい点があろうが、ぜひ民泊は復活してもらいたい。

企画には学生の参加もほしい

臼井地区

（参加者＝小学生四十四名、中学生一名）

一、学生の方の目的がついに不明確なまま終った。だから子供たちに接するときも仲間意識をつよめたり、リーダー養成に重点をおくのか、勉強会なのかが不明確であった。今後はぜひスッキリさせるべきである。

二、昨年や今年の経験をもって来年の企画にはぜひ学生を加えてもらいたい。小学生の場合、一年生から六年生まで一緒に勉強をみるのはムリだが、仲間意識を育てたり、リーダーを養成するにはいいと思う。

三、小学生の五、六年の子供にはとくに第二組合員の子供に対する感情的な反発がつよいようだ。職場や地域の状況が反映しているのだろうが、中学生になるとうすれるようだ。

× × × ×

宮原地域での学習会

（参加者＝小学生二十三名、中学生十名）

自主的な子供会づくりへ

万田地区

一、期間中、子供たちの中に仲間意識や連帯感をつくり出すことを目的にしてきた。われわれが帰ったあとも、自主的に子供会をつくる方向へいろいろと努力をしてきた。

しかし、父兄の中にはどの学習会を学習塾みたいに考えている人もいる。地域分会や主婦会で意志統一をして、ぜひこのような方向まで侵透する討論を十分にしてもらって、夏期対策の意義について意志統一をしてもらいたい。

原万田は実施が直前に決まったらしく、体制も十分ではなかったが、地域分会の人たちに夏期対策をやってみてよかったと思われるようにと、一生懸命やってきた。この目的だけは果せたと思う。

二週間の期間だけでは、子供の教育も集団生活の訓練も不十分なものになってしまうので、地域分会の運動として日常的な接触を子供たちとつづけるべきであろう。

組合運動の一部として位置づけてもらいたい

緑ケ丘七地区

（参加者＝小学生二十七名、中学生一名）

一、子供は積極的に参加してきているようだが、親の態度は昨年にくらべてあまり進歩がないようだ。このような児童対策が組合運動の一環として身を入れてとりくまれないと、二週間のこの対策が実を結ばないのではなかろうか？

二、複々式教育で技術的にはむづかしかったが、団体生活や集団の規律を育てるためにはよかったと思う。高学年がまじめにやれば低学年も静かに遊ぶし、六年生が計画をたてて全体でやらせるという方向が出てきていた。

三、民泊を復活してもらいたいという意見が多いが、学生間で三池の問題を話し合う場も大切だと思う。このような合同合宿は民泊の数をふやした上で残してもらいたい。

二、目的について執行部と下部とにズレがあり、その間で学生の問題意識だけが空まわりしていた。組合の方にもむつかしい点があろうが、ぜひ民泊は復活してもらいたい。

（参加者＝小学生二十七名、中学生一名）

一、子供は積極的に参加してきているようだが、親の態度は昨年にくらべてあまり進歩がないようだ。このような児童対策が組合運動の一環として身を入れてとりくまれないと、二週間のこの対策が実を結ばないのではなかろうか？

二、複々式教育で技術的にはむづかしかったが、団体生活や集団生活の規律を育てるためにはよかったと思う。高学年がまじめにやれば低学年も静かに遊ぶし、六年生が計画をたてて全体でやらせるという方向が出てきていた。

三、民泊を復活してもらいたいという意見が多いが、学生間で三池の問題を話し合う場も大切だと思う。このような合同合宿は民泊の数をふやした上で残してもらいたい。

反省を生かして

地域からの総括はじまる

成功のうちにおわった今年の夏期児童対策は、上に紹介したように学生からの貴重な意見が地区ごとに出されている。

三池労組はこのような反省を、地域分会、主婦会運動の中に十分生かして、来年の夏期対策をむかえるように総括をはじめた。

子供の教育を、三池の組合、主婦会運動の中に、いまいちと大きく位置づけて考え直し、地域運動をつくり出すことが追及されている。

〈時のことば〉

労働力統制の復活

労働力誘導政策

労働力不足のなかで、重点産業に労働力を集めようと、労働省は七月三十日構想をまとめました。対象産業は、鉄鋼、電力、化学、医療など十二業種。これは戦前の労働力統制の復活です。これらの産業に人が集まらないのは労働条件が悪いからです。